

災害ボランティア活動支援プロジェクト会議 (支援P)について

社会福祉法人
中央共同募金会

2004年10月に起こった新潟中越地震発生直後、経団連、日本NPOセンター、全国社会福祉協議会、東京ボランティア・市民活動センター、日本赤十字社、中央共同募金会等が災害ボランティア活動支援に関する情報交換の機会を持ったことがきっかけとなり、新潟中越地震における災害ボランティアセンターの振り返りの必要性や、経験知の継承、ノウハウ構築の必要性が共有されました。

そして、2005年1月、復興ボランティア活動への助成の実施と検証のための調査を行うため、災害ボランティア活動支援プロジェクト会議の前身である「災害ボランティア・市民活動支援に関する検証プロジェクト会議」がスタートしました。

【設置主体】

社会福祉法人中央共同募金会

【事務局】

社会福祉法人中央共同募金会

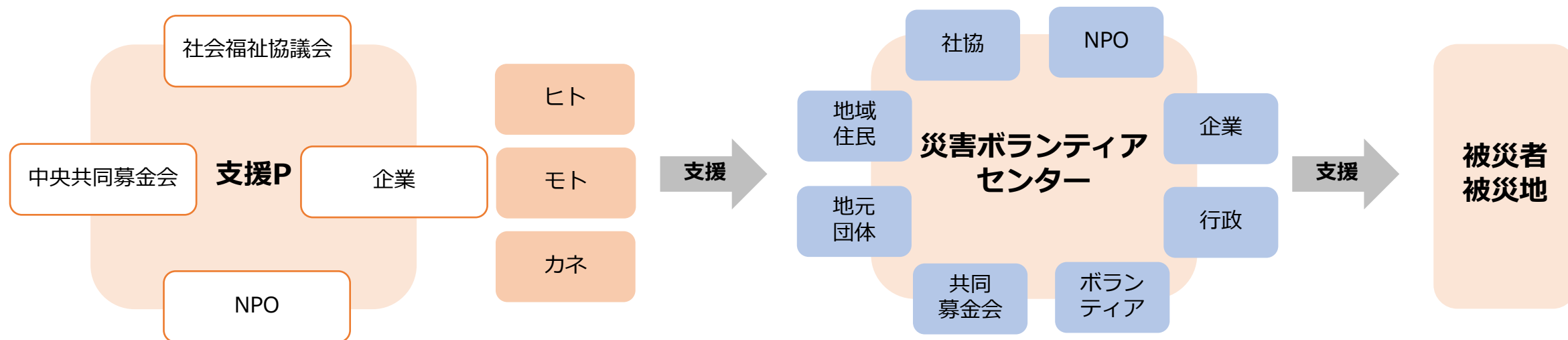
東京都千代田区霞が関3-3-2新霞が関ビル5階

Tel.03-3581-3846 / fax.03-3581-5755

■ 組織体制

- ・ 企業、NPO、社協等で構成されるネットワーク型組織です
- ・ 2024年度は30団体が支援P構成団体委員となっています
- ・ 幹事団体を構成団体委員から選出し、2024年度は5団体が幹事となっています

■ 活動スキーム



■地元を尊重し、被災地主体の活動の実現をめざして活動する

ヒト

- 現地社協の要請により、災害ボランティアセンター、現地社協を支援するために**運営支援者**を派遣。
- 災害ボランティアセンターの設置・運営のサポートや助言を実施。
- 支援P委員、全社協の講師陣・研修修了生から協力を得て実施。

モノ

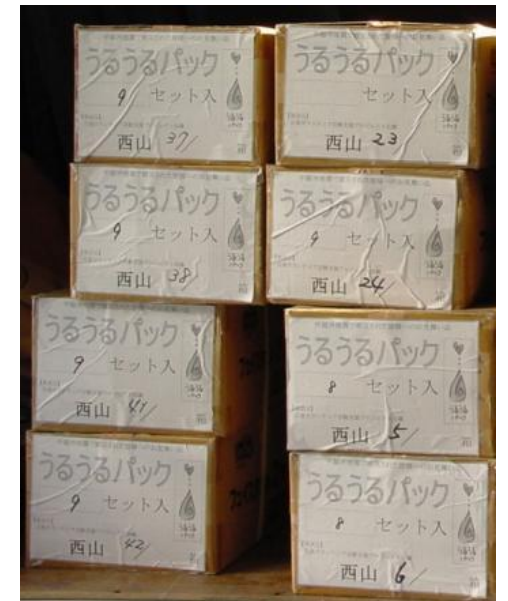
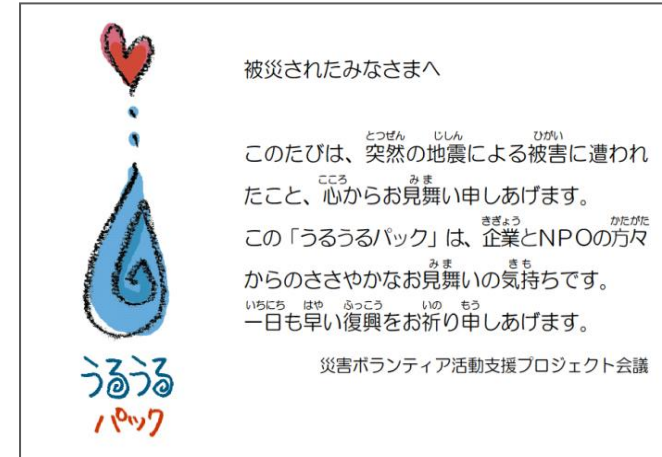
- 災害ボランティアセンターからの要請により、経団連1%クラブ会員等から日用品を募り、物資をパック化（うるうるパック）し、災害ボランティアセンターを通じて、被災者に配布。
- 災害ボランティアセンターに必要な通信機器やパソコン等を企業の協力のもと手配。

カネ

- 経団連1%クラブが会員企業に呼びかけ、災害ボランティアセンターにかかわる運営支援者経費、および中長期的な被災地主体の復興プロジェクト経費等への助成のため、企業の寄付や社員募金の受け入れを実施。

うるうるパックについて

- 被災地域の方々が必要とする物資を一旦県外で集約し、各世帯に配付できるようにパックしてお届けするもの。
- 災害ボランティアセンターで、被災者の方々とコミュニケーションの円滑剤、被災者を応援する心を届ける手段として、知恵と工夫を凝らして配付する。
- 届け先や時期など、被災者の方々のニーズによって、詰め合わせ内容にバリエーションをつけている。
- 支援Pだけでなく、災害VCやNPO／NGOにも、意義が浸透し、手法が広がる。
- 経団連1%クラブを通じて、各企業へ物品提供を呼びかけ中



人材育成

- 災害ボランティアセンターの運営支援者を育成するための研修を実施
- 全国の社会福祉協議会の職員やNPOの職員が参加
- 企業向けにもボランティアの育成研修を実施

検証

- 災害ごとに振り返りを実施し、運営支援者育成や次の災害に備える
- 特に大災害では、検証を実施し、災関係機関・関係者調査などにより、次の災害時への備えやあり方に活用している

情報発信

- 共同募金、社会福祉協議会、NPO、企業など、多様な機関の参画を促すため、活動報告会、対話や研修の場を提供しています
- 活動報告書を作成し、広く活動内容を発信しています